

主 題：
ローマ人への手紙第5章から第8章
——聖書の核心

標 語

ローマ第5章から第8章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています。「命」と「死」という言葉は、第5章から第8章で、二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、すなわち命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。

わたしたちは苦難の中でキリストを享受するとき、彼の命の中で救われつつあり、神のダイナミックな救いの有機的な目標を完成します。この目標とは、キリストの有機的なからだを生み出し、建造し、諸地方召会において表現することです。そこにおいてわたしたちは主の豊富な恵みを享受し、またそこにおいて平和の神はサタンをわたしたちの足の下に踏み砕き、彼の栄光の表現を得て、彼の勝利を展覧します。

正しいバプテスマを経験した後、キリストの復活の様の中で、わたしたちは続けて彼の中で、また彼と結合して生長します。これが命の新しさの中を歩くことです。

ローマ第8章は、三一の神の究極的完成としてのすべてを含む命を与える霊に関してです。この霊は、わたしたちを命、性質、表現において、キリストと完全に同じにならせます。

ローマ人への手紙第5章から第8章における命の路線と死の路線

聖書：ローマ 5:10, 12, 14, 17-18, 21. 6:4, 9, 16, 21-23.

7:5, 10, 13, 24. 8:2, 6, 10-11, 38

I. ローマ第5章から第8章は聖書の核心と呼ぶことができ、聖書の主題全体を具体的に、また詳細に示しています：

- A. これら二つのかぎとなる言葉(「命」と「死」)は、ローマ第5章から第8章において繰り返し述べられています。命(5:10, 17-18, 21. 6:4, 22-23. 7:10. 8:2, 6, 10-11, 38)と死(5:12, 14, 17, 21. 6:9, 16, 21, 23. 7:5, 10, 13, 24. 8:2, 6, 10-11, 38)は、第5章から第8章で、命の路線と死の路線という二つの対照的な路線を形成しています。これは、人が神とサタンとの間の、すなわち命と死との間の、三角の状況にあることを示しています。
- B. 命の木と知識の木(死の木)は、二つの路線をもたらします。それは、命の路線と死の路線であり、聖書全体を貫いており、啓示録において終わります。命は、命の木をもって始まり(創 2:9)、命の水の都である新エルサレムをもって終わり、命の木(啓 22:1-2)と命の光(21:23. 22:5)と命の栄光(21:10-11, 23)を伴っています。死は、知識の木をもって始まり(創 2:17)、火の池をもって終わります(啓 20:10, 14)。
- C. 命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです(創 2:9, 16. 啓 2:7)。召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊富になります。
- D. しかし、キリストを享受するには、わたしたちが初めの愛をもって彼を愛することが必要となります。もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台しよくだいはわたしたちから除き去られます——啓 2:4-7。
- E. 初めの愛を回復することは、すべての事で主イエスを第一と考えることです。わたしたちがキリストを自分の生活の中ですべてとするなら、これは、わたしたちが初めの愛を失うことに勝利したことを意味します——コロサイ 1:18 後半. ヨハネ 14:21, 23. 詩 90:1. 91:1. ペリピ 3:13-14。
- F. エペソに在る召会への主の語りかけは、英語の「L」の文字で始まる四つの重要な言葉で要約することができます。それは「愛(love)」、「命(life)」、「光(light)」、「燭台(lampstand)」です。わたしたちはあらゆる面において、またあらゆる事において、主イエスに首位を与えて、初めの愛を回復しなければなりません。そうすれば、わたしたちは彼を命の木として享受します。

そして、この命は直ちに命の光となります(ヨハネ 8:12)。そうすれば、わたしたちは、日常生活の中で団体的に燭台として輝きます(啓 2:1-7)。

G. 悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ享受することをしないことです(参照、イザヤ 55:1-2, 6-7, 57:20-21)。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主と接触することをせず、彼を取らず、彼を受けず、彼を味わわず、彼を享受しません。神の目に、これほど邪悪なことはありません(エレミヤ 2:13)。

II. 今日、信者は、小規模なエデンの園であり、霊の中に命の木としての神を持っており、肉の中に知識の木としてのサタンを持っており、彼の思いが中間にあります。わたしたちは、霊にいるか肉にいるかのどちらかです。わたしたちがいるべき第三の場所はありません。こういうわけで、わたしたちは思いを霊に付けなければならないのです——ローマ 8:6:

A. 人の体は本来、純粋なものでしたが、人の墮落を通して、サタンが彼自身を人の中へと注入し、人の体は肉となりました——創 3:6. ローマ 7:18 前半:

1. わたしたちの体は「罪の体」(6:6)また「この死の体」(7:24)です。罪の体は、神に対して罪を犯すことではとても活発で、力に満ちています。しかし、この死の体は、神を喜ばせるために活動することにおいては弱く、無能です(18 節)。
2. わたしたちがまだ生きている限り、わたしたちの贖いの日まで、罪と死の体は常にわたしたちと共にあります——参照、8:23。
3. 肉は、罪と死とサタンとの「集会所」また複合体です。肉には望みはなく、決して改良されることができません——7:17-18, 21. 参照、ヨハネ 17:15。

B. 神のエコノミーのために、神は彼の知恵と主権の中で、わたしたちの罪深く醜い肉を用いて、わたしたちを強いてわたしたちの霊に戻させます。それはわたしたちが、わたしたちの中での神の増し加わりによって、神の建造のためにさらに多くその霊を獲得するためです——コロサイ 2:19. ゼカリヤ 4:6:

1. 法理的に言えば、サタンとわたしたちの肉は十字架上で一度で永遠に罪定めされましたが(ローマ 8:3. ヨハネ 3:14. ヘブル 2:14. II コリント 5:21)、神は肉がわたしたちにとどまることを許し、肉がわたしたちを助け、わたしたちを強いて、霊の中のキリストに戻らせ、わたしたちがもはや肉を頼みとしないようにします(ピリピ 3:3)。
2. 罪深く醜い肉による助けがないなら、わたしたちは必死になって主を獲得しようとせず、また彼がわたしたちの中へと造り込まれるようにしないで——ローマ 7:24-25. 8:2, 6, 13。

3. わたしたちの目標は、聖別や靈性や勝利であるかもしれませんが、神の目標は、ご自身をわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちを栄光なものにすることです。しばしばわたしたちは困難な状況にあるとき、さらに主に開き、さらに進んで彼に立ち返り、彼にご自身をわたしたちの中へと造り込んでいただくようになります——28-29 節、エペソ 5:27。
4. わたしたちが彼を追い求めるなら、肉という罪深い複合体でさえ、主を獲得することにおいてわたしたちの助けとなります。わたしたちは頻繁に失敗するので、必死になって靈に戻るのです。そうすれば、このようにして、わたしたちはさらに多くその靈を獲得します——参照、出 23:23, 29-30, 士 2:21—3:4。
5. わたしたちの困難、敗北、失敗、落胆はわたしたちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が役立つのはただ、わたしたちを強いて靈の中のキリストに戻らせ、わたしたちを靈の中へと押し込み、必死になって靈の中へと入らせ、目を覚まして靈の中にとどまるようにさせるということだけです——マタイ 26:41, エペソ 6:17-18。
6. 主は、わたしたちが勝利を得るかどうかには注意していません。主はただ一つの事だけに注意しています。それは、わたしたちが思いを靈に付けることによって、その靈としてのキリストを獲得することです——ピリピ 3:8, II コリント 3:17-18, ローマ 8:6。

III. わたしたちは、ローマ第 5 章ではアダムの中におり、第 6 章ではキリストの中におり、第 7 章では肉の中におり、第 8 章では靈の中にいます。第 5 章のアダムは第 7 章の肉の中で経験され、第 6 章のキリストは第 8 章の靈の中で経験されます：

- A. わたしたち、キリストにある信者は、キリストの死を通してアダムから出て、キリストの復活を通してキリストの中へと、事実においても地位においても移されています——6:3-8：
 1. アダムの中で、わたしたちは罪を受け継ぎました。その罪は、わたしたちを罪人に構成しています(5:12 前半, 19 前半)。アダムの中で、わたしたちは死を受け継ぎました。その死は一方で、わたしたちを弱くして、神を喜ばせる事をできなくさせ、もう一方で、わたしたちを王として支配しています(12 後半, 14 前半, 17 節前半)。またアダムの中で、わたしたちは律法の下で死に至る罪定めを受け継ぎました(16 節前半)。
 2. キリストの中で、わたしたちは以下の賜物を受けました。すなわち、義と、命と、恵みの中で命に至る義認を受けました。この命の中で、わたしたちは恵みと共に王として支配し、万物を治めます——17 節後半, 18 節後半, 21 節。
- B. わたしたち、キリストにある信者は、実行上の経験的な移行を持ちます。

すなわち、わたしたちはキリストと共に十字架につけられることを通して(6:6. ガラテヤ 2:20)、肉(実行上の経験的なアダム)から移し出されて、命の霊の法則としてのキリストとの有機的な結合を通して(ローマ 8:2, 16 節前半. I コリント 6:17)、その霊(実行上の経験的なキリスト)の中へと移し入れられます。

C. キリストご自身は神の命、永遠の命です(ヨハネ 14:6 前半, 11:25. I ヨハネ 1:2)。彼が来たのは、わたしたちが命を得、しかも豊かに得るためです(ヨハネ 10:10 後半)。彼が命を解き放つ死を遂げて、命を分与する復活の中へと入り(12:24)、命を与える霊と成って(I コリント 15:45 後半)、命の霊の法則として(ローマ 8:2)、わたしたちの霊、思い、死ぬべき体に命を与えるのは、わたしたちが命によって飲み尽くされて、他の人に命を供給する者となるためです(10, 6, 11 節. II コリント 5:4. I ヨハネ 5:16 前半. ヨハネ 6:63. 使徒 5:20)。

IV. わたしたちは命の路線にとどまるために、命の木としてのキリストを享受する道を取らなければなりません。以下のリー兄弟の極めて重要な交わりを参照してください：

命の木としてのキリストを享受する道を取る—— リー兄弟からの極めて重要な交わり

「1943年5月……わたしは深刻な結核に感染しました。……わたしは二年半のわたしの病の期間に、命の木を見ました。その二年半にわたしは、主の回復において、また主の働きにおいて、わたしたちが命に欠けていることを見ました。あらゆる種類の問題は、それが何であっても、命の不足の結果です。わたしはこのことを見た時、非常に後悔し、主の御前で多く告白し、徹底的な悔い改めを持ち、また主の御前で多くの対処を持ちました。……命の木についてのメッセージは、南京において多くの聖徒たちを救い、また多くの兄弟姉妹を解放しました。上海に在る召会における四年間の騒動のゆえに、聖徒たちは長年にわたって落胆し、意気消沈して、何もすることができませんでした。これらのメッセージは彼らの霊を解放し、彼らの心を照らしました。……主に感謝します。命の木についてのメッセージを通して、上海に在る召会はいやされました。……命の木についてのメッセージは、上海に在る召会の復興のために基礎を据えました」——ウイットネス・リー全集、1981年、第2巻(上)、「主の回復の歴史と啓示」、第8編。

「もしわたしたちが神を享受する道を取りたいなら、観念を変えなければなりません。……もしわたしたちが神を享受する実際の中へと入りたいなら、支配するビジョンを見なければなりません。……わたしが四十歳になってはじめて、主はわたしに彼を享受する道を啓示してくださいました。わたしは自分の二十年間の

時間と労力の大部分が無駄であったことに失望しました。わたしの祈りの大部分は価値がなく、聖書や他の霊的書物を読むのに費やした時間も価値がありませんでした。この時わたしは、わたしたちの働きの道が間違っており、またわたしたちの霊的な追求の道も間違っていたことに気づきました。

「間違った道を取ることから大きな損害を被ったので、わたしは他の人たちに同じ間違いを繰り返してもらいたくありません。わたしが望むのは、他の人たちが神を享受する道を取ることができることです。わたしは聖徒たちにもはやこれ以上、間違った道を取らないように懇願します。わたしたちは以前のわたしたちの追求の道を考慮すべきです。わたしたちは観念において徹底的な転換を持たなければなりません。わたしたちは支配するビジョンを持つ必要があります」——「命の木と善悪知識の木のビジョン」、第5章。

©2025 Living Stream Ministry